

新潟県企業短期経済観測調査の概要

(業況感)

- **業況判断D.I.**は、「良い」超幅が解消。
—— 製造業は「悪い」超に転化。非製造業は「良い」超幅が縮小した。

▽主な業種別の変化要因

		業種	主な要因
製造業	改善	はん用・生産用・業務用機械、 輸送用機械	販路拡大
	悪化	鉄鋼、金属製品、食料品、繊維、 非鉄金属、紙・パルプ、化学、 窯業・土石製品、電気機械	中国経済の回復の遅れ 暖冬の影響 人手不足・コストアップによる利幅縮小
非製造業	改善	対事業所サービス、卸売	価格転嫁 人流の回復
	悪化	鉱業・採石業・砂利採取業、電気・ ガス、小売	震災の影響 一部自動車メーカーの不正問題

- **先行き**については、「良い」超に転化する見通しである。
—— 製造業は「悪い」超が縮小見通し。非製造業は「良い」超幅が拡大する見通し。

(事業計画)

- 2023年度は、**売上高**、**経常利益**が前年を上回る見込みである。
—— 経常利益は、製造業では、価格転嫁の進捗などから増益計画となった。一方、非製造業では、コストアップによる利幅縮小などから減益計画となっている。
—— 経常利益を前回調査対比で見ると、製造業は価格転嫁の進捗や為替差益などから、非製造業は外出機会の増加などから上方修正となった。
- 2024年度は、**売上高**が前年を上回る計画である。一方、**経常利益**は前年を下回る計画である。
—— 経常利益は、製造業では、コストアップや中国景気の回復の遅れなどから減益計画と

なった。一方、非製造業では、価格転嫁の進捗などから増益計画となっている。

- 2023 年度の設備投資は、前年を大幅に上回る見込みである。
 - 製造業、非製造業ともに、能増投資や更新投資のほか、前年度に先送りした投資計画の実施などから、前年を上回る計画である。
 - 前回調査対比で見ると、製造業、非製造業ともに、下方修正となった。
- 2024 年度の設備投資は、前年を上回る計画である。
 - 製造業、非製造業ともに、能増投資や営業拠点の拡張などから、前年を上回る計画である。

(その他の判断項目)

- 販売価格判断 D. I. は、「上昇」超幅が縮小した。仕入価格判断 D. I. は、「上昇」超幅が拡大した。
- 雇用人員判断 D. I. は、「不足」超幅が縮小した。
- 資金繰り判断 D. I. は、「楽である」超幅が拡大した。貸出態度判断 D. I. は、前回並みの「緩い」超となった。借入金利水準判断 D. I. は、「上昇」超幅が縮小した。

以 上